

テーマ「地域スポーツクラブの必要性とは」

地域スポーツクラブ育成施策の展開も早や 16 年が経過し、平成 28 年 7 月現在、東京都内には 129 の地域スポーツクラブが設立・登録されています。クラブ数は年々増加の傾向にあり、小学校の学校開放を利用する小規模クラブから、公共スポーツ施設の指定管理を担うような大規模クラブまで、多種多様な広がりを見せています。また、地域スポーツクラブは人間関係の希薄化が増々進行している現代社会において、スポーツ環境の整備に加え、ユニバーサル社会の実現やコミュニティ形成にも期待されています。このように地域クラブ創設・育成の機運の高まりが感じられる一方で、「地域スポーツクラブの必要性」や「地域スポーツクラブの目的」等を含めクラブの存在意義が十分に議論されないまま、クラブの創設・育成が進められてきたという問題もあります。

そこで今回のシンポジウムでは、行政担当者・クラブ運営担当者・障害者スポーツ関係者などを招いて、対話形式で地域スポーツクラブに関わる様々な内容について議論し、複合的な観点から地域スポーツクラブの必要性を確認・吟味することを目的としました。

【基調講演】

● 「地域スポーツクラブの必要性とは」

野川 春夫 氏（順天堂大学大学院 特任教授）

初めに公共スポーツ施設の社会的意義、地域社会の未来、現在社会の課題及び関心についてお話し頂きました。そして、最近の日本のスポーツ関連政策、総合型地域スポーツクラブの目的、及び総合型地域スポーツクラブの特徴などを紹介されました。（総合型）地域スポーツクラブの必要性、クラブがもたらす社会的メリット及びクラブが抱える課題などを主な内容とした基調講演でした。

【トークセッション】

○コーディネーター

野川 春夫 氏（順天堂大学大学院特任教授）

○ゲスト

御所窪 和子 氏（新宿チャレンジスポーツ文化クラブ会長）

小内 清子 氏（クラブアドバイザー・スポーカル六本木事務局長）

斎藤 尚美 氏（杉並区教育委員会スポーツ振興課事業係）

廣木 美奈 氏（公益社団法人東京都障害者スポーツ協会）

○司会

野川 春夫 氏

小内 清子 氏

トークセッションでは、基調講演の内容を基にユニバーサル社会の実現とより良い地域コミュニティの形成に地域スポーツクラブがどのように寄与・貢献できるかを中心に議論しました。

初めに野川氏が、日本には中長期の日本語があまり話せない外国籍の方に対する政策がないという問題を挙げました。それに対しゲストの方が各々の活動を紹介しました。それらの多くは、外国籍の方に限定したのではなく、対象を問わない活動でした。その為、国籍に関係なく一緒に活動できる場を創り出すことができます。

また、参加者からは「スポーツ推進委員のクラブへの関わり方」や「後継者の確保」、「退職男性高齢者の取り込み方」といったクラブの人材について質問がありました。これらの質問についてゲストの方々や野川氏から各クラブや海外の事例等を紹介して頂きました。「ヒトを増やす」ことを考える場合、地域スポーツクラブとしては「地域の人材をどのように活かすか」を考えることが重要なポイントであることをご指摘頂きました。

最後に野川氏から、地域スポーツの発展について国に何を期待するかという質問がされました。小内氏、御所窪氏からは場所や会場といったスポーツ環境について、斎藤氏からは地域で生活している人の視点からの好循環の創出、廣木氏からはトップアスリート以外の一般の方も対象とした障害者スポーツ政策をそれぞれの立場から意見して頂きました。

今回のシンポジウムは、地域スポーツクラブの必要性を改めて確認し、その上で地域スポーツクラブの役割や意義について様々な観点から議論することを目的としました。前半の基調講演により、参加者が地域スポーツクラブの必要性を十分に理解することで、後半のトークセッションを積極的な議論の場にすることができました。参加者が積極的に参加することで議論の幅が広がり、シンポジウムはより有意義なものになったと思います。

地域スポーツクラブは、クラブ毎に様々なビジョンやミッションがあります。その為、今回のシンポジウムのように、クラブについて様々な立場から議論することは、今後の地域スポーツクラブの発展に必要な事であると思います。

